第２４回全日本中学生都道府県対抗１１人制ホッケー選手権大会
【レギュレーション（TD 通達)】

１．大会運営　本大会の運営は、(公社）2023 年度版日本ホッケー協会競技運営規程並びに第２４回全日本中学生都道府県対抗１１人制ホッケー選手権大会実施要項による。

２．競技規則　2023 年度版（公社）日本ホッケー協会ホッケー競技規則による。

３．競技時間　試合時間は、ノンストップ制。
前半２０分・後半２０分とし、前後半の間に５分間の休憩をおく。
但し、交流戦は、前半１５分・後半１５分とし、前後半の間に５分間の休憩をおく。
※競技運営上、クオーター制の導入をしない。

４．試合管理　試合時間は、当該試合ＴＯが管理する。但し、前・後半終了間際に与えられたペナルティーコーナーは、規定の試合時間が終了しても中止されることはなく、それが完遂するまで続けられ終了したときは、アンパイアのホイッスルをもって規定時間の終了となる。

５．競技方法
（１）全試合トーナメント方式によって実施する。尚、１回戦（初戦）の敗者同士による交流戦を行う。
（２）規定の時間内に勝敗の決しないとき、試合終了後「６.」に定めるＳＯ戦を行い、勝敗を決する。但し、交流戦においては、勝者を決定しなければならない試合を除いては、ＳＯ戦を行わない。

６．シュートアウト戦（ＳＯ戦）
※ 詳細は、2023 年度版日本ホッケー協会競技運営規程を参照
※試合終了後に SO 戦を行う場合は、試合終了後５分以内に開始しなくてはいけない。
（１）両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、エントリー済みの選手の中から５名の選手と１名のゴールキーパーを指名する。
（２）両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後両チーム５名ずつの選手により交互に攻防を１巡行い（計１０回)、得点の多いチームを勝者とする。
（３）（２）の方法によって勝敗の決しない時は、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数の攻防を行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再ＳＯ戦を行う。この時は、ゴール数が同じであった場合、選手はプレー不可能な者を除き各チーム同じ選手により先攻後攻を入れ替え、以降のＳＯ戦を行う。但し、順番は変えてもよい。

７．試合の中断と再開

天候等やむを得ない理由により、試合が中断された場合は、下記によって試合を再開する。
(1)再開の試合の場合は、中断した時の得点で残りの時間のみ試合を行う。
(2)再開の試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。
(3)その他の事項についてはＴＤの判断により決定する。

8．チームベンチ

1 チームの編成は、監督 1 名、コーチ 1 名、手当てをする者 2 名（大会開始日に 20 歳以上)、選手 22 名以内とする。 チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることはできない。(但し、U15 カテゴリー部会申合せ事項およびＴＤの許可を受けた者はこの限りではない。)

※選手は 1～22 の番号をユニフォームの定められた場所に明示する。

※エントリーの際、各都道府県の男女チームの監督を兼ねることはできない。監督とコーチの兼任は可とするが、男女それぞれのチームで JHA のチームスタッフ登録を済ませていること。尚、チームの監督またはコーチのどちらかは、日本スポーツ協会公認コーチ３以上の資格を有するものであること。また、手当者も JHA チームスタッフ登録を済ませること。チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることができない。(但し、学校長、ベンチには入れない３年生等、TD の許可を受けた者はこの限りではない。このことは代表者会議で確認する。)

9．フィールドへの立ち入り

(1)試合中は、当該審判員・試合に出場している選手以外は、誰もフィールド内に入ることはできない。但し、当該審判員の許可を得た者は、フィールド内に入ることができる。

(2)試合中、選手に怪我等が起こった場合は、スターティングリストに明示された手当てする者の中から１名と監督の最大２名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入場することができる。フィールドに入場している間は、選手に対してコーチングをしてはならない。

(3)コーチングはチームベンチ、コーチングエリアからのみできる。

10. 選手の交代

(1) 選手の交代は、その試合にエントリーされた者の中から選ばれる。

(2) 各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティーコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備側のゴールキーパーは除く)

(3) 選手の交代は、何回行ってもよい。

(4) 一時退場させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。
※今大会、グリーンカード警告のみ、イエローカード３分又は６分とする。

(5) 選手の交代は、テクニカルテーブル前方のセンターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行われない。ただし、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

11. 確認事項

(1) 今大会では「スターティングリスト」を試合開始４５分前までに本部に提出すること。
★試合開始１５分前に、「次試合テント」で待機する。次試合テントでは、競技役員により選手確認、リングパス、服装・装具の点検を行う。尚、リングパスについては 各チーム最初の試合のみ行う。（シールで対応）

(2) ペナルティーコーナーで使用する保護具は試合開始前に事前に当該試合 TO に使用確認すること。尚、怪我を防止するため、フェイスマスク等の使用を奨励する。
また、可能な限り感染予防のため防具の共用を避けるのが望ましい。

(3) 各チームのプレーヤーは正規の番号をつけ、大会期間中は変更できない。

(4) キャプテンは、上腕部、肩、ソックスの上部のいずれかに必ずキャプテンマークをつけること。

(5) ロングスパッツ、アンダーシャツについては、U15 カテゴリー部会での申合せ事項を優先する。
※ロングスパッツは禁止、アンダーシャツを着用する場合は各チームで全員が同じ色のものを着用しなければならない。着用と非着用の選手が混在していてもよい。

(6) ユニフォームは必ず２着用意し、試合会場（ベンチ）に持参すること。

(7) 選手は、すね当てを必ず着用してストッキングを上まであげて履くこと。膝は隠さないこと。

(8) マウスガードは必ず装着すること。（ＧＫは義務対象外）
※「未着用届」が提出されている選手については、着用を免除する。

(9) 今大会ではフル装備のゴールキーパーを必ずおくこととする。フル装備のゴールキーパーは、怪我の防止のため装具を完全に着用すること。特にアンダーパッドは必ず装着すること。（チームの責任で遵守すること）

(10) ベンチは、 [競技日程表]の左側チームがテクニカルテーブルから見て左側とする。

(11) 全試合とも「人工芝コート」で行うので、「ポイントスパイク」の使用は認めない。

(12) 試合中、乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は厳に戒める。（監督・コーチ・手当者・応援団についても同じ）

(13) 今大会において、抗議制度はない。応援者は、大会実行委員会および U15 カテゴリー部会の指示に従うこと。（保護者など応援者からの抗議等には一切応じない。監督は、保護者による抗議等はできない旨を事前に説明しておくこと。）

(14) 選手が負傷により、ベンチより誰か（ストレッチャーを含む）が選手の手当てのためにフィールド内に入場した場合は、その選手はフィールドを出てから試合時間で２分間以上、ベンチエリアに留まらなくてはならない。（ゴールキーパー除く）

(15) 競技中の疾病・傷害等については、大会本部で応急処置を行うが、その後の治療等はチームの責任において行うこと。（「負傷・事故報告書」の提出）

(16)「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷・事故報告書を TO または TD に提出する。本人への健康確認の上、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷・事故報告書を大会事務局に提出（郵送）すること。

(17) 試合開始時に 7 名未満の場合、試合を棄権した場合は、その試合は没収試合とする。没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。（得点は５対０で相手チームの勝利とする）

(18) 試合終了後、両チームの監督は、テクニカルテーブルですみやかに１０分以内に署名すること。

(19) 代表者会議終了後、「行動規範確認書」を各監督は提出する。各監督は、ＪＨＡ 競技運営規定付属書の行動規範を確認しておくこと。

(20) その他、本規定に定めのない事項または不測の事態が発生した場合は、ＴＤの指示に従うこと。

(21) 今大会では選手・スタッフは、ID として『会員証一括印刷』により印刷をした顔写真入りの会員証を各自または各チームで準備したネックホルダーに入れ、常に首からかけておくこと。（カラーまたは白黒印刷は問わない）

12. ルール確認

《(1)~(5)2019 変更の再確認、(6)2022 修正、(7)~(8)2021 新規変更、(9)2022 追加》

（１）サークル内にある防具により、おそらく入っていた得点が防がれた場合→ＰＳ

（２）サークル内における守備側のＦＨは、従来通り反則地点のサークルトップ(14.63m 地点）に加え、サークル内のどの場所から再開することも可能。

（３）サークル付近の攻撃側 FH の場合、FH が即座に行われなかった場合は、守備側選手はサークル内であってもリスタート地点から 5m 離れる。(常に 5m 離れようとする指導を奨励)

（４）PC 完遂の条件から「サークル外に２回出る」の要件を削除。 PC 完遂（ＰＣ状態の解除）要件で「ブリー」の項の削除。

（５）PC において攻撃側のフライングは、罰則としてパッサーがセンターラインに戻される。

（６）守備者が PC 用の防具を取り外す適切な機会がなかった場合、23m のエリア内にいる間、ペナルティーなしで防具を着用し続けることができる。すべてのプレーヤーは、23m のエリアから出る前、または審判から指示されたときに、すべての保護具を外さなければならない。

（７）GK の肘用防具については、覆わなくてもよくなった。

（８）ブリーによる再開方法について、スティックの平らな面を軽く 1 回打ち合わせる方法となる。

（９）落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、５ ｍより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、危険と判断された場合はこの限りではない。

(10)ペナルティーコーナーが与えられたとき試合時間は停止されない。準備のための４０秒の計測はしないが、守備側プレーヤーのフェイスマスク、保護用グローブ、膝当て等はすみやかに装着すること。

１３．感染症拡大防止対策

本大会では、特別の感染拡大防止対策は行わない。ただし、発熱で感染の疑いがある選手については医療機関を受診し、医師の判断を仰ぎ、TD に相談すること。なお、引き続き各チームは感染防止に努めること。

◆試合開始時・終了時のセレモニー

《開始時》

試合開始２分前に 「テクニカルテーブル前整列」～「トス」～「テクニカルテーブルあいさつ」～ 「コートへ散る」

《終了時》

「センターであいさつ」～「わかれ」

※時間短縮のため、テクニカルテーブル・相手チームへのあいさつは行なわなくてもよい。